



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月31日

上場会社名 東洋シャッター株式会社

上場取引所 東大

コード番号 5936 URL <http://www.toyo-shutter.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡田 敏夫

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員経営企画統括部長 (氏名) 丸山 明雄

TEL 06-4705-2125

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|--------|-------|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 23年3月期第3四半期 | 10,931 | △4.6 | △122 | — | △162 | — | △950 | — |
| 22年3月期第3四半期 | 11,456 | △24.0 | △494 | — | △562 | — | △611 | — |

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 23年3月期第3四半期 | △184.46 | — |
| 22年3月期第3四半期 | △118.61 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|--------|-------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 23年3月期第3四半期 | 15,390 | 4,509 | 29.3 | 681.09 |
| 22年3月期 | 15,057 | 5,458 | 36.3 | 865.23 |

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 4,509百万円 22年3月期 5,458百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|----------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 22年3月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 23年3月期 | — | 0.00 | — | | |
| 23年3月期 (予想) | | | | 0.00 | 0.00 |

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

(注) 上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|--------|------|------|---|------|---|-------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 15,300 | △4.1 | 0 | — | △80 | — | △820 | — | △159.14 |

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.2「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 _____）、除外 一社（社名 _____）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|----------|------------|----------|------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 23年3月期3Q | 5,187,123株 | 22年3月期 | 5,187,123株 |
| ② 期末自己株式数 | 23年3月期3Q | 34,779株 | 22年3月期 | 34,084株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 23年3月期3Q | 5,152,710株 | 22年3月期3Q | 5,153,784株 |
| ※ 期末発行済株式数（優先株式） | 23年3月期3Q | 2,000,000株 | 22年3月期 | 2,000,000株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）2ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

| 第1回優先株式 | 1株当たり配当金 | | | | |
|------------|----------|--------|--------|--------|--------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| 22年3月期 | — 円 | 0.00 円 | — 円 | 0.00 円 | 0.00 円 |
| 23年3月期 | — | 0.00 | — | | |
| 23年3月期(予想) | | | | 0.00 | 0.00 |

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------------|---|
| 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 2 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 2 |
| 2. その他の情報 | 2 |
| (1) 重要な子会社の異動の概要 | 2 |
| (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 | 2 |
| (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 | 2 |
| (4) 会社の経営に重要な影響を及ぼす事象 | 2 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 3 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 3 |
| (2) 四半期連結損益計算書 | 5 |
| (第3四半期連結累計期間) | 5 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 6 |
| (4) 継続企業の前提に関する注記 | 7 |
| (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 7 |
| (6) その他の注記事項 | 7 |
| 4. 補足情報 | 7 |
| 連結製品別売上明細 | 7 |

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国の市場拡大や政府の各種経済対策により、景気は穏やかな回復傾向にあるものの、長引く円高やデフレの進行、欧州の財政不安等により、景気の先行きについては不透明な状況のまま推移しました。また、国内における民間の設備投資も低調に推移いたしました。

当シヤッター業界におきましても、建設関連投資の抑制に伴う需要の減少や受注競争激化など、いまだ極めて厳しい状況が続いております。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間においては、競争激化による販売価格の低迷により、売上高は前年同四半期比4.6%減の10,931百万円になりました。

利益面におきましては、営業損失は122百万円（前年同四半期比371百万円減）、経常損失は162百万円（前年同四半期比399百万円減）となり、四半期純損失では、公正取引委員会からの課徴金を特別損失に計上したこと等により、950百万円（前年同四半期比339百万円増）となりました。

しかしながら、当社グループは積極的な営業活動による受注確保、特別早期退職制度の実施等のコスト削減に取り組んで参り、その結果、第2四半期の期間の営業損益での黒字化に続き当第3四半期の期間の損益においても営業損益、経常損益及び四半期純損益での黒字化となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて333百万円増加し、15,390百万円となりました。

流動資産では前連結会計年度末比549百万円増加の7,149百万円となり、固定資産では前連結会計年度末比216百万円減少の8,240百万円となりました。

流動負債では前連結会計年度末比1,371百万円増加の9,668百万円となり、固定負債で前連結会計年度末比88百万円減少の1,213百万円となりました。

純資産では前連結会計年度末比949百万円減少の4,509百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の業績見通しにつきましては、平成22年10月28日付「平成23年3月期第2四半期決算短信[日本基準](連結)」にて発表いたしました内容から変更はありません。

※ 業績予想は、現時点で入手可能な情報の基づいておりますが、実際の数値はさまざまな要因により、予想数値と異なる可能性があります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

なお、これによる損益に与える影響はありません。

(4) 会社の経営に重要な影響を及ぼす事象

当社グループは、当第3四半期連結累計期間において950百万円の四半期純損失を計上いたしました。その結果、金融機関とのコミットメントライン契約の財務制限条項に抵触する事実が発生し、当社グループが将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事情又は状況その他提出会社の経営に重要な影響を及ぼす事象(重要事象等)が存在しております。

しかしながら、財務制限条項に抵触する事実が発生しておりますが、取引金融機関に今後の見通しについて説明及び協議を行い、その結果、期限の利益喪失の権利行使を行わない旨の同意を得ております。よって、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと考えております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日) |
|-------------|--------------------------------|--|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,206 | 651 |
| 受取手形及び売掛金 | 2,981 | 3,960 |
| 商品及び製品 | 0 | — |
| 仕掛品 | 1,335 | 813 |
| 原材料及び貯蔵品 | 540 | 499 |
| 繰延税金資産 | — | 88 |
| その他 | 1,140 | 639 |
| 貸倒引当金 | △54 | △52 |
| 流動資産合計 | 7,149 | 6,600 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 3,102 | 3,230 |
| 土地 | 4,143 | 4,147 |
| その他(純額) | 558 | 600 |
| 有形固定資産合計 | 7,804 | 7,978 |
| 無形固定資産 | 97 | 71 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 24 | 21 |
| その他 | 357 | 417 |
| 貸倒引当金 | △42 | △31 |
| 投資その他の資産合計 | 339 | 407 |
| 固定資産合計 | 8,240 | 8,457 |
| 資産合計 | 15,390 | 15,057 |

(単位：百万円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日) |
|---------------|--------------------------------|--|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 4,036 | 2,937 |
| 短期借入金 | 4,100 | 3,700 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 550 | 532 |
| リース債務 | 73 | 55 |
| 未払金 | 323 | 391 |
| 未払法人税等 | 54 | 73 |
| 賞与引当金 | — | 136 |
| 工事損失引当金 | 59 | 103 |
| その他 | 470 | 366 |
| 流動負債合計 | 9,668 | 8,296 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 919 | 1,036 |
| リース債務 | 160 | 125 |
| 長期未払金 | 19 | 19 |
| 繰延税金負債 | 72 | 82 |
| 退職給付引当金 | 42 | 38 |
| 固定負債合計 | 1,213 | 1,302 |
| 負債合計 | 10,881 | 9,598 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,838 | 1,838 |
| 資本剰余金 | 0 | 0 |
| 利益剰余金 | 2,705 | 3,656 |
| 自己株式 | △37 | △37 |
| 株主資本合計 | 4,506 | 5,457 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2 | 1 |
| 評価・換算差額等合計 | 2 | 1 |
| 純資産合計 | 4,509 | 5,458 |
| 負債純資産合計 | 15,390 | 15,057 |

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) |
|--------------------|--|--|
| 売上高 | 11,456 | 10,931 |
| 売上原価 | 8,894 | 8,379 |
| 売上総利益 | 2,561 | 2,552 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,055 | 2,674 |
| 営業損失(△) | △494 | △122 |
| 営業外収益 | | |
| 保険配当金 | 19 | 22 |
| 受取補償金 | 6 | 15 |
| 助成金収入 | — | 14 |
| その他 | 12 | 16 |
| 営業外収益合計 | 38 | 68 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 64 | 59 |
| シンジケートローン手数料 | 21 | 24 |
| その他 | 21 | 24 |
| 営業外費用合計 | 107 | 109 |
| 経常損失(△) | △562 | △162 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | — | 15 |
| 賞与引当金戻入額 | — | 53 |
| その他 | — | 6 |
| 特別利益合計 | — | 76 |
| 特別損失 | | |
| 工事契約会計基準の適用に伴う影響額 | 1 | — |
| 課徴金 | — | 680 |
| 特別退職金 | — | 41 |
| 損害賠償金 | — | 17 |
| 貸倒損失 | — | 1 |
| 特別損失合計 | 1 | 742 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △563 | △828 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 47 | 44 |
| 法人税等調整額 | — | 77 |
| 法人税等合計 | 47 | 121 |
| 少数株主損益調整前四半期純損失(△) | — | △950 |
| 四半期純損失(△) | △611 | △950 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △563 | △828 |
| 減価償却費 | 312 | 285 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | 12 | 12 |
| 退職給付引当金の増減額(△は減少) | △0 | 4 |
| 前払年金費用の増減額(△は増加) | 19 | 42 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | △174 | △136 |
| 工事損失引当金の増減額(△は減少) | 89 | △44 |
| 土地売却損益(△は益) | — | △15 |
| 受取利息及び受取配当金 | △1 | △1 |
| 支払利息 | 64 | 59 |
| 固定資産除却損 | 7 | 3 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 882 | 961 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | 494 | △563 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △313 | 1,099 |
| 前受金の増減額(△は減少) | △213 | 193 |
| 前払費用の増減額(△は増加) | △15 | △7 |
| その他 | 100 | △635 |
| 小計 | 698 | 430 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1 | 1 |
| 利息の支払額 | △64 | △59 |
| 法人税等の支払額 | △66 | △57 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 569 | 314 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 投資有価証券の取得による支出 | △0 | △0 |
| 固定資産の取得による支出 | △68 | △89 |
| 固定資産の売却による収入 | — | 20 |
| 会員権の売却による収入 | 2 | — |
| 貸付けによる支出 | △8 | △8 |
| 貸付金の回収による収入 | 9 | 13 |
| その他 | 1 | 4 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △63 | △60 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | 100 | 400 |
| 長期借入れによる収入 | — | 300 |
| 長期借入金の返済による支出 | △399 | △399 |
| 自己株式の取得による支出 | △1 | △0 |
| 配当金の支払額 | △66 | △0 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △366 | 300 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 139 | 554 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 842 | 651 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 982 | 1,206 |

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) その他の注記事項

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形割引高は、676百万円であります。

(四半期連結損益計算書関係)

当社は公正取引委員会より、シャッター等の販売及び受注に関し平成22年6月9日、独占禁止法第3条に違反する行為があるとして、排除措置命令及び課徴金納付命令を受けました。

これにより、当第3四半期連結累計期間において、当該課徴金680百万円を支払い、特別損失に計上しております。

4. 補足情報

連結製品別売上明細

| 品名 | 前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日) | | 当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) | | 増減率 (%) |
|---------|--|------------|--|------------|------------|
| | 金額(百万円) | 構成比 (%) | 金額(百万円) | 構成比 (%) | |
| 軽量シャッター | 1,851 | 16.2 | 1,845 | 16.9 | △0.3 |
| 重量シャッター | 6,101 | 53.2 | 6,057 | 55.4 | △0.7 |
| シャッター関連 | 754 | 6.6 | 846 | 7.7 | 12.2 |
| シャッター計 | 8,708 | 76.0 | 8,749 | 80.0 | 0.5 |
| スチールドア | 2,147 | 18.7 | 1,699 | 15.6 | △20.9 |
| 建 材 他 | 600 | 5.3 | 482 | 4.4 | △19.7 |
| 合 計 | 11,456 | 100.0 | 10,931 | 100.0 | △4.6 |